

国際交渉

関税局第一参事官室
課長補佐

川口 力也

KAWAGUCHI Rikiya

平成24年度入省 理工



国際潮流を関税・税関の世界から

国際貿易を支える最前線

近年、米国の政策動向をはじめ、世界各国で関税政策への注目が一段と高まっています。国際情勢がめまぐるしく変化中、日本としても迅速かつ確かな対応が求められており、私が所属している第一参事官室では、主に以下の役割を担っています。

まず、世界の関税制度や税関行政の最新動向を調査・分析し、日本政府の政策判断に必要な情報を提供しています。各国の制度を深く理解し、その内容を関係者と議論することで、国際的な潮流を踏まえた実効性の高い政策立案に貢献しています。さらに、税関の使命である「貿易の円滑化」や「社会悪物品の水際取締り」を実現するため、海外の税関当局との協力関係の構築も欠かせません。実務レベルでの連携や制度設計を進め、国境を越えた協力体制を整えることで、安全でスムーズな国際物流を支えています。

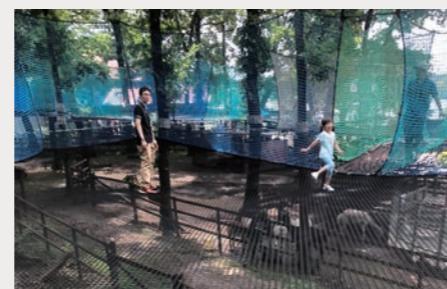
また、WTOなどの国際会議では、既存の貿易ルールの運用や新たな国際ルールの策定に向けた議論に、税関の専門家として参画しています。各国の利害が交錯する場で、日本の立場を的確に発信し、国際ルール形成に貢献することも重要なミッションです。加えて、EPA(経済連携協定)交渉では、関税制度や税関行政、財務省所管物資に関する協議に参加し、

より良い国際経済環境の構築に貢献しています。

税関総合職の魅力

税関総合職の魅力は、活躍のフィールドが驚くほど広いことにあります。貿易の最前線で国際物流を支えるだけでなく、関税制度の企画立案、国際交渉、海外当局との協力体制の構築など、多様な業務を通じて専門性を高められる環境が整っています。培った知識と経験を基に、日本の税関行政を担う専門家として、WTOやEPA交渉といった国際舞台で日本の立場を発信できる点も大きな魅力です。私自身も、出入国旅客の荷物検査の制度設計、政策立案に向けたデータ分析、マネーロンダリング・テロ資金供与対策、国土交通省への出向、さらには英国留学など、多彩な経験を積むことができました。こうした幅広いキャリアパスは、税関総合職ならではの強みです。

国内外の課題に向き合い、日本と世界のより良い未来をつくる一員として成長できる——そんなやりがいと満ちた職務です。ぜひ、税関総合職として私たちと共に挑戦してみませんか。



仕事で最大限のパフォーマンスを発揮するために、私はオンとオフの切り替えをとっても大切にしています。休日は家族とのんびり散歩をしたり、長期休暇には旅行に出かけたりと、心身をリフレッシュできる時間をしっかり確保しています。また、最近では業務に役立てられるかもという思いから、自宅で気分転換を兼ねてLLM(大規模言語モデル)の勉強を始め、良い刺激になっています。



国際協力

関税局第二参事官室
国際協力専門官

須藤 祥一

SUDO Shoichi

平成14年度入省 理工

揺れ動く国際情勢の中での国際協力

国際協力を通じた世界との繋がり

税関は国際貿易の一翼を担っていることもあり、常に世界を向いて仕事をし、というユニークかつスケールの大きな組織風土・職員意識があります。

そのような組織の中で、私は日本税関と各国税関との間の国際協力を推進する業務に携わっています。

国際協力の1つには、開発途上国税関の能力向上を図る、関税技術協力の取組があります。1970年から50年以上続いている本取組では、日本税関の職員が相手国に赴いたり、相手国税関職員を日本に招聘したりして、Face to Faceで講義を行うことにより、「人」を育て、「人」と繋がることを主眼に置いて取組が進められてきています。

また、日本税関は、税関の国際機関である世界税関機構(WCO)における税関の標準を策定する議論に参画するとともに、WCOが行う技術協力に対して資金面・人材面で貢献することにより、世界の税関の調和と発展に大きく協力しています。このWCOの取組においても、世界各地で「税関の先生」を育てるマスタートレーナープログラムなど、「人」を育てる国際協力を行っています。

税関の国際協力は、相手国の発展を通じ、世界の経済活動や貿易秩序に大きく貢献しています。

国際協力により高まる強靱性

大きく揺れ動く国際情勢の中では、予見可能性を持ち安定して経済活動を行うことが困難となります。

日本税関では、これまでの関税技術協力やWCOでの協力を通じて、相手国税関との間で「信頼関係」を構築してきています。また、世界経済にとって重要な社会の安定や貿易の発展には税関の貢献や協力が不可欠であるという「価値観を共有」してきています。

「人」と繋がり、「人」を育てることを大切にやってきた関税協力、そして、これを通じて積み上げてきた信頼関係によって、ときに国家間で対立する関係においても、税関分野においては円滑な意思疎通や協力を維持・発展することができています。

国際情勢が安定しているときにはなかなかその意義や効果が目に見えにくい国際協力ですが、連綿と続く協力関係は、国際社会の中で日本がしなやかに対応できる「強靱性」をもたらしてくれています。

10年後、20年後を見据えて、一緒に国際協力関係を発展させていきましょう。

是非、関税局・税関のドアをノックしてみてください。



土日や出勤前の朝の時間、長い休みの期間などに娘と一緒に過ごすことが一番の楽しみです。

フレックスタイムを活用して朝の時間を有効に活用したり、有給休暇を活用して連続した休みを取って旅行に出かけたりと、柔軟な働き方を提供してくれる職場環境には感謝しています。